

6. 事業内容

当国において、抗レトロウイルス薬（Antiretroviral Drugs:ARV 薬）は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金や米国大統領エイズ救済緊急計画等により、当国保健省を通じて無償で提供されている。同薬を用いた治療は、高い服薬遵守率が求められるにもかかわらず、正しい服薬方法への理解不足や社会的偏見のため、患者が治療を中断してしまう例が後を絶たない。患者が ARV 薬服用による治療を継続するためには、薬の無償化に加え、治療施設の機能強化、正しい知識の定着、差別や偏見を克服するための啓発、さらに患者本人だけでなく家族や親近者を巻き込んだ包括的な支援体制が不可欠である。

当会は 2013 年 1 月より 3 カ年計画の中で、HIV 陽性者への支援体制を確立し、地域におけるエイズの脅威を軽減するための活動を行っている。

今次第 2 期事業では、第 1 期で取り組んできたマウントマクル、ナンゴングウェ 2 地域にムウェンベシ地域を加え、ART 患者とその親近者への服薬支援を実施、継続するとともに、3 カ所のクリニックの環境整備を行う。ムウェンベシ地域においては、学校エイズ対策クラブを通じた予防啓発活動への支援も実施する。

（ア）ART センターの建設と整備

ムウェンベシ・クリニックに ART センターを建設し、診察用ベッドや患者情報を管理する PC 等必要資機材を供与する。また、第 1 期に建設したマウントマクル及びナンゴングウェ両クリニックの ART センターには情報管理機能強化のためのプリンターや患者ファイル用棚等を供与し、患者が受診しやすい環境を整備する。ART センターの郡保健局への譲渡後の維持管理体制については、当会と郡保健局の間で締結した覚書を通じ、郡保健局が責任を持って管理運営することを合意済みであるが、第 1 期に引き続き、当会が管理状況を随時確認し、適時、郡保健局及びクリニック職員に対して指導や助言を行う。

（イ）ART 患者情報管理システムの改善と確立

ムウェンベシ・クリニックにおいて、第 1 期の経験も活かしながら基礎調査を通じて現在の情報管理状況を確認する。その上で、クリニック担当者及び服薬支援ボランティアが ART 患者の通院情報をより正確に把握できるシステムづくりを目指す。マウントマクル及びナンゴングウェ両クリニックにおいては、第 1 期で導入する通院患者情報管理ソフトウェア（スマートケア）活用の定着化を図り、ART 患者の通院情報をより正確に把握し、服薬支援ボランティアによる家庭訪問へとつなげ、患者の治療脱落防止に努める。

（ウ）服薬支援ボランティアの育成と自立支援

第 2 期事業ではマウントマクル、ナンゴングウェ、ムウェンベシの 3 カ所のクリニックにおいて、服薬支援ボランティアによる家庭訪問を強化し、通院する患者のうち、予約日に来院していない患者の通院再開を促す。

ムウェンベシ・クリニックにおいては、既存の服薬支援ボランティア 25 名を対象に、服薬支援に必要な基礎知識やカウンセリング技術に関する研修を実施する。また、自転車等、患者の家庭訪問に必要な機材を供与する。さらに、供与した自転車を長期間維持管理するための研修を実施する。

当初、ボランティアの活動持続性向上を目的とした、組織運営力や資金調達力習得のための研修は第 3 期での開催を予定していたが、より早期の知識習得及び実践が必要と判断し、第 2 期より開催することとした。

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	(エ) ART 患者及びその親近者に対する啓発活動実施 3ヵ所のクリニックに登録されているART患者とその親近者を対象に、HIV/エイズ基礎知識及び服薬継続に関するワークショップを1回2日間の日程で実施する。 なお、第1期を通じ、ART患者の服薬継続のためには、家族だけでなく友人やパートナーが一番身近な支援者であることも分かったため、対象を「家族」から「親近者」とする。 (オ) 学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施 ムウェンベシ地域において、4校のエイズ対策クラブを対象に、HIV/エイズ基礎知識やクラス巡回啓発活動準備のためのワークショップを開催し、学内外で予防啓発に携わる人材を育成する。また、エイズ対策クラブの顧問教師を対象にした指導者研修も開催し、各校で持続的な予防啓発活動を行える体制を構築する。これらの研修での学びを活かし、各校が自主的に学内外の若年層に向けた予防啓発活動を実施できるよう支援する。 ①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） (ア) マウントマクル及びナンゴングウェ両クリニックにおいてARTセンターの建設が着工し、10月竣工の予定で進行している。また、郡保健局と覚書を締結し、同センター引渡し後の維持管理体制についての確認を行った。 (イ) マウントマクル及びナンゴングウェ両クリニックにおいて、ART患者の情報管理状況を確認した。国内で幅広く有効性が認められているソフトウェア（スマートケア）の導入及び整備に向け、新たにワークショップを計画した。 (ウ) マウントマクル6名、ナンゴングウェ15名の計21名の服薬支援ボランティアを選出し、3回のワークショップ（「活動計画策定」「HIV/エイズ基礎知識及び服薬支援システムマネジメント」「社会心理カウンセリング」）を実施した。また、ナンゴングウェにおいては服薬支援ボランティアによるART患者の家庭訪問を5月より開始し、6月末までに25件の訪問を行った。マウントマクルでは5回のグループカウンセリングを実施し、のべ124人の来院患者が参加した。マウントマクルの家庭訪問は7月より実施する。 (エ) ART患者及びその家族を対象にしたHIV/エイズ基礎知識及び服薬支援に関するワークショップを、マウントマクル及びナンゴングウェあわせて計5回実施し、ART患者72名及びその親近者66名が参加した。 ②これまでの事業を通じての課題・問題点 (ア) マウントマクルにおける服薬支援ボランティアの活動に関し、クリニックのART関係職員と情報共有するよう努めているが、ART担当看護師の長期不在や職員間の情報共有不足により、連携や調整に苦慮している。 (イ) 服薬支援ボランティアが家庭訪問をするにあたって参照する患者情報ファイルへの住所や電話番号等必要事項の記載不備や、記載があっても不正確なことが多く、患者の居場所の特定が困難な例が多い。 ③上記②に対する今後の対応策 (ア) これまではART担当看護師を中心に連絡調整を行っていたが、今後は、准医師、カウンセラーや他の看護師とも情報共有を行う。 (イ) 次回来院時には、情報収集の目的及び守秘義務を厳守することを伝え、住所や電話番号等、最低限の情報の記載を徹底するとともに、地図、
--------------------------------	--

	所属先、通っている教会名、居住年数等の詳細情報も記録する。また、患者が自分で陽性であることを誰に伝えているかを把握し、家庭訪問に役立てる。
--	---